

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立吉田中学校

1 自己評価書

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
教育目標 心たくましく、地域とともに歩む生徒の育成 ～地域とともに「ふるさと 吉田」の明るい未来を目指して～						
基本方針 1 家庭・地域との連携を更に進め、家庭・地域から応援され、信頼される学校づくりを目指す。 2 知、徳、体のバランスがとれた「たくましく生きる力」を育む学校づくりを目指す。 3 ウェルビーイングを高め、一人の人間として互いに認め合いながら、多様な人材を育成する学校づくりを目指す。 4 全教職員が高い志と実践的指導力を持ち、教育愛にあふれた学校づくりを目指す。						
本年度重点目標 1 応援され、信頼される学校づくり 2 「たくましく生きる力」を育む学校づくり 3 多様な人材を育成する学校づくり 3 教育愛にあふれた学校づくり						
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	後期ののみ
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	D	
				・生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・生徒アンケート	A	
	(成果と課題) ○ タブレット端末の活用や「けてぶれ」学習法の実践により、生徒の学習意欲が高まり、理解も深まった。 ○ 総合的な学習の時間の全体計画を見直し、計画的に地域学習に取り組ませることで、地域のよさを感じている生徒の割合が増えた。 ○ 多くの小項目で、教職員や生徒に比べて保護者の評価が低い。					
	(改善策等) ○ 読書活動については、生徒会活動を通じて、読書の意義等の啓発を行っていききたい。 ○ 保護者に対し、学校の取組を積極的に発信するとともに、家庭でもしっかり取り組めるよう協力を依頼していききたい。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	B
				・生徒アンケート	C	
	(成果と課題) ○ 定期的な指導部会により、情報共有が密になり、組織的な対応ができるようになった。 ○ 外部の関係諸機関の方を交えてのケース会議を開き、不登校生徒やその保護者への対応を協議することができた。 ○ 自己肯定感・自己有用感の高い生徒の割合が他と比べて低い。(自己肯定感 67.0%、自己有用感72.1%)					
	(改善策等) ○ 生徒一人一人のよさを認め、よさを伸ばす指導を行っていくとともに、何か活躍や善行があった場合は積極的に保護者に伝えていきたい。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D D	D
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間外勤務が月80時間を超える教職員の割合は、依然として多い。 ○ 行事の精選、事務処理の簡素化、校時の工夫により、時間的なゆとりを生むことができた。 ○ 教育活動支援員との打合せや情報共有に時間が必要であるが、その時間がとれない。 ○ 部活動指導員の活用により、部活動顧問の負担は軽減されている。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職、各主任の立場にある者から率先して意識改革に努め、働きやすい環境づくりに努めていきたい。 ○ PTAや学校運営協議会の協力も得ながら、教職員の負担軽減の取組を考えていきたい。 						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
			家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B A A	
	②	情報発信	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の熟議が深まり、学校運営に対し、共通の認識や課題(ビジョン)を持つことができた。 ○ 各種通信(文書)、ホームページ、マチコミメール等、タイムリーな情報を発信することができた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PTAや学校運営協議会の充実を図り、家庭や地域との連携強化に努めていきたい。 ○ 生徒会行事や学年行事等、できるだけ保護者や地域の方が参観できる機会を増やしていきたい。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満